

# サステイナブルスクール交流便り

2016年9月にESD重点校形成事業～輝け！サステイナブルスクール～が開始して以来、各校から様々なご報告をいただいております。学校間で交流を始めたり、事業推進委員の先生方が各校を訪問したりと、その方法は様々です。このような交流から、これまで気がつかなかった自校の魅力を再発見し、その気づきをESD推進の次への一歩として活かしている学校が多くあります。サステイナブルスクールへの認定、交流を通して何か変化はあったのでしょうか。また、日々の忙しさの中でどのように交流を実現させているのでしょうか。今回、サステイナブルスクールを含め、様々な学校と交流をおこなっている**千葉県立桜が丘特別支援学校**にお話を伺いました。

## ● 千葉県立桜が丘特別支援学校に関して簡単な紹介をお願いします。 ●

千葉県立桜が丘特別支援学校は千葉市にあり、周辺の10市5町の通学区域から身体に障害がある子どもたちが通っている学校です。今年度は、全校で169名の児童・生徒が在籍しています。小学部、中学部、高等部のほかに、自立活動部、訪問部、寄宿部があります。また、通級指導もおこなっており、2017年6月現在24名の児童生徒の指導をおこなっています。また、本校では、学部毎に児童生徒の実態に合わせた3つの教育課程があり、それぞれの発達段階に応じたカリキュラムを実施しています。

本校には寄宿舎が併設されており、生活全般の自立を目指して月曜日の放課後から金曜日の朝まで寄宿舎に泊まりながら通学し、土日は家で過ごすという生活を送っています。また、自校給食のため、児童生徒の実態に応じて様々な食形態の給食が提供されています。

本校は、2014年末にユネスコスクールに加盟し、2015年から本格的に活動を開始しました。2017年度はユネスコスクール3年目です。本校のESDのキーワードは「つながり」「発信する」「共生社会の構築」です。全校職員で取り組めるよう、昨年度末から今年度にかけて、分掌を見直して、校内体制を構築しました。小学部、中学部、高等部、自立活動部、寄宿部それぞれにESDの分掌係がいて、各学部でESDを推進することができているので、学校全体でESDに取り組もうという意識が年々高まっています。栄養士も積極的に

国際理解教育、ESDに取り組んでおり、「世界のごはん」という国際理解の食育の日が毎月1回あります。

サステイナブルスクールになってから、サステイナブルスクール同士での交流学習を始めました。小学部は宮城県登米市立米谷小学校と、中学部は大阪府の箕面こどもの森学園と、それぞれ交流学習をしています。また、高等部は千葉県高等学校教育研究会のESD部会に所属し、千葉県内のユネスコスクールに加盟している高等学校と交流をもっています。県内外のユネスコスクールとの交流学習に取り組むことで、新たな視点や学び、つながりができ、児童生徒たちにとってつながりを広げるよい機会となっていると感じます。



【交流相手校との合同制作物の制作風景】

## ● サステイナブルスクールになってから学校に変化はありましたか？ ●

「サステイナブルスクールに選ばれた」ことで、「ESDを広げ深めていく役割を担っていく必要がある」と意識しやすくなり、「私たちがやっていることは間違っていないのだ」と自信をもつことができ、今まで以上に頑張ろうという気持ちと覚悟をもてるようになりました。また、日本全国でESDに取り組んでいる学校と出会い知り合うことができ、それら

の学校の実践例を聞いたり、ACCUの研修に参加させていただく機会が増えたりしたことで、とても刺激を受けたとともに、教員のESDへの意識が高まりました。サステイナブルスクールというつながりをもつことができ、他校の頑張りを具体的に、直に知ることができたことで、自分達自身の取り組みをもっと充実させたいという気持ちが増しました。

## ● 交流を通して再発見した自校の魅力はありますか？ ●

一人一人の児童生徒たちが、自分自身で「できること」を伸ばし、自分のもてる力を発揮しようと一生懸命取り組んでいることが、学校内だけでなく、様々な人と関わることでより輝きを増すのだということを教員たちが再認識することができました。また、学校外で実践を発表したり交流を通して伝えたりすることが増えましたが、各学部の各クラスのどの

実践を切り取っても自信をもって紹介できる素晴らしい取り組みばかりであるということを再認識することができました。

また、学校の一部の人だけが取り組んでいるのではなく、学校全体でESDに取り組もうという姿勢ができつつあるということが、当たり前のことではなく、素晴らしいことなのだということを再発見しました。

## ● 交流するよさを教えてください。 ●

校種や地域の異なる学校と交流する機会をもつことは難しいですが、サステナブルスクールやユネスコスクールという枠組みの中で遠方の学校との交流をおこなうことができ、自分の生活している地域と異なる地域の文化や生活を知ることができることが魅力だと思います。そして、他の地域の文化や生活を知ること、自分たちの地域の文化や生活を見つめ直すきっかけになり、自分の周りの環境の再発見にもつながると思います。

また、交流をすることで、相手校に自分たちのことをどのように伝えればよいかを考えたり、より多くの方に自分たちの取り組みや想いを伝えたいという気持ちや意識が芽生えたりすることが良いことだと思います。人や地域とつながり、お互いを知ることが共生社会の構築につながると思うので、やはり自分たちのことを「発信する」ということが大切であるということを再認識できました。

## ● 交流する際、正直大変なこともあると思います。大変なこと、そして克服する方法があればその方法を教えてください。 ●

相手校とのやりとりの手段が限られるため、リアルタイムでの交流ができないことが残念だし歯がゆいと感じます。千葉県の公立校はSkypeでのやりとりは認められていない

ため、どうしても郵送物でのやりとりに限られます。交流先の児童生徒たちと直接会話することができたらよいのかなと思います。

## ● 今後の展望（夢）について教えてください。 ●

交流校の児童生徒を本校に招いたり、本校から交流校を訪問したりするというような、直接的な交流ができたらよいなと感じています。学校間で実際に児童生徒が行き来すること

は物理的にも金銭的にも難しい面が多いですが、ぜひ実現させられたらよいなと思っています。

## ● 「サステナブルスクール交流便り」を手にされるすべての方々にメッセージをお願いします。 ●

手探りの中始めたESDの取り組みも、2017年度で3年目となり、学校の中で少しずつ形になってきました。児童生徒たちは少しずつですがESDに興味をもち、意識や行動が変容してきつつあるように感じています。

本校は共生社会の構築を目指してESDに取り組んでいます。学校での取り組み、児童生徒たちの想いなどを「発信していく」「知ってもらおう」ということで、友達、家族、地域、社会、世界と「つながっていける」と思います。そして、つ

ながることで、障害のある人も無い人もお互いに認め合い、共に生きていける社会の構築を実現することができると考えます。今後も、児童生徒の自立に向けた目の前にある日々の取り組みをしっかりと行いつつ、日本全国そして世界各国の方々との交流を楽しみながら、ESDに取り組み、発信していきたいと思っています。本校に興味をもった方は、ぜひご連絡ください。住みやすい地域、持続可能な社会、よりよい未来をつくっていくために、共に考え行動していきましょう。

## ESD重点校形成事業開始の背景

国連持続可能な開発のための教育の10年（以下、国連ESDの10年）の最終年となる2014年11月に、日本政府とユネスコの共催により、愛知県名古屋市および岡山県岡山市において、「ESDに関するユネスコ世界会議」が開かれました。その会議において、国連ESDの10年の後継目標として「ESDに関するグローバル・アクション・プログラム（GAP）」が発表され、同年第69回国連総会にて採択されました。ユネスコ主導の下、2015年から2019年までの5年間、ESDはこのGAPに基づいて推進されています。

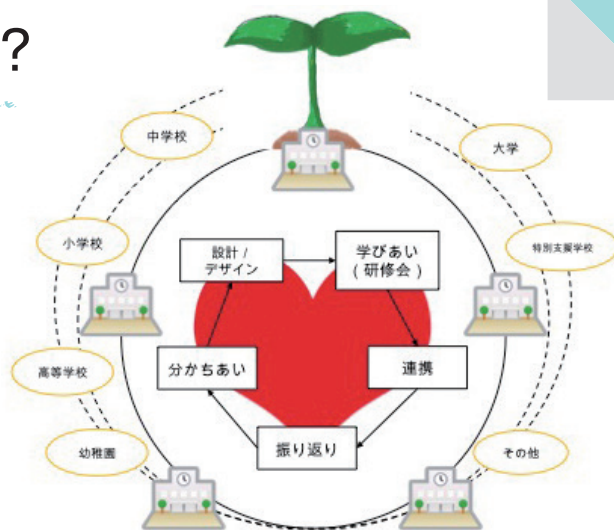
また、国内に目を向けると、日本ユネスコ国内委員会に設置されたESD特別分科会が「国連ESDの10年」の成果と課題を整理し、平成27年8月に「持続可能

な開発のための教育（ESD）の更なる推進に向けて」と題する報告書を取りまとめました。報告では、今後のESD推進方策として、ESD普及のための取組と並行してESDを深化させる（実践力を高める）ための取組の強化がうたわれています。学校全体で、また他校や地域との連携も視野に入れて活動を実践し、持続可能な未来の実現に向け、教育を通じて一人ひとりの変容していくことが期待されています。

このような経緯を受け、日本におけるユネスコスクール事務局である公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）は、文部科学省より「平成28年度日本/ユネスコパートナーシップ事業」の委託を受け、ESD重点校形成事業を実施することとなりました。

## ESD重点校形成事業とは？

ESD重点校形成事業は、教育を通じて持続可能な社会を構築するために、実践的な取組を行う意欲のある学校を公募・選定し、その取組を発展および深化させるために必要な支援をする事業です。学びあい（研修会）→連携→振り返り→分かちあい→設計/デザインのサイクルを繰り返すことにより、重点校（以下、サステナブルスクール）に留まらず、ESDの活動を広げつなげていきます。



## サステナブルスクール形成の目的

- 本事業の支援を受けて、サステナブルスクールが事業に関わるすべての人に学びをもたらす活動を展開し、自らの思考・行動の変容によって成長すること
- 他のサステナブルスクールの成果を本校の取組に生かし、サステナブルスクール同士も連携しながら多面的な魅力を持つ学校へ発展すること
- サステナブルスクールが本事業の支援を受けてESD

- 実践校として自立し、周辺の他の学校や地域・家庭を先導してESDの深化に寄与すること
- サステナブルスクールの寄与によりESDが教育現場そして地域社会に根付き、持続可能な社会を構築していくこと
- 加えて、その活動を世界へ向けて発信し、国際的に展開していくこと

## 関連資料のご紹介



### 「ひと目でわかる ESD 推進事業ガイド」(2017) (日・英)

本冊子は、ACCU がユネスコスクール事務局として実施するESD 推進事業を一冊にまとめたものです。ESD に対して十分な理解があり活動を深化していきたい方、ESD に関心はあるけれどもどのように活動をはじめたらよいか分からない方などESD に関わっている全ての方が活動を始める第一歩を踏み出すことができるようになる一冊となっています。

この一冊を通して、皆様に出会えることを楽しみにしております。

送料のみご負担いただければ、書籍の送付も可能です。



### 「キラリ発進！サステイナブルスクールーホールスクールアプローチで描く未来の学校ー」

(2017) (日)

本冊子は、平成28 年度日本/ユネスコパートナーシップ事業として文部科学省から委託を受け、2016 年9 月より始動したESD 重点校形成事業と2016 年11 月に開催した国際ワークショップの様子を記した一冊です。

日本では重点校（以下、サステイナブルスクール）としてどのような学校が選ばれ、どのような活動をしているのか。国際的にサステイナブルスクールとしてどうあるべきなのか。イギリスのアシュレー校校長のリチャード・ダン氏をお招きし、持続可能性の「哲学」を様々なバックグラウンドを持つ参加者と分かち合った様子も紹介しています。この一冊を通して、「新しい学び」を感じていただきその学びが全国に広がっていくことを心より願っています。

送料のみご負担いただければ、書籍の送付も可能です。

## 公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター (ACCU) について

ACCU は、ユネスコ(UNESCO,国際連合教育科学文化機関) から「アジア太平洋地域での文化の相互交流を促進する中核的センター」の設置を打診されたことを契機に、1971 年に日本政府と出版界を中心とした民間の協力によって設立されました。設立以来、ユネスコのうたう「平和は、人類の英知と精神的な連帯のうえに築かれるものである」という精神のもとに、日本を拠点にアジア・太平洋地域諸国の教育と文化の分野でユネスコや各国関係団体と協力して、人材の育成と相互交流を促進する事業を行っています。現在、文部科学省より委託を受け、ユネスコスクール事務局としてユネスコスクール加盟時、加盟後の支援をおこなっています。



### 問い合わせ先

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター(ACCU)

〒162-8484 東京都新宿区袋町6 (日本出版会館)

電話:03-3269-4559 Fax:03-3269-4510

E-mail: webmaster@accu.or.jp

ACCUホームページ: <http://www.accu.or.jp/jp/index.html>